

## 「学生による授業評価」のまとめ 2013年度秋学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会  
委員長 中村 和彦

2013年度秋学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2013年12月12日～2014年1月20日に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1教員1科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けのFD関係Webページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同Webページで開示しています。

### 1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの1科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で580科目が授業評価の対象となりました。

② **設問項目** 設問は18個あります。設問1から3までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う内容です。設問4から18は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問になっています。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2013年12月12日～2014年1月20日)→ 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2014年2月3日) → FD委員会による自由記述の閲覧(2014年2月) → 教員からの報告書提出(2014年2月) → FD委員会での結果の分析・検討(2014年2月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2013年度秋学期」の発行(2014年6月)

### 2 集計結果の概要

結果の概要は、括弧付きの頁部分に記載されています。

① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は99.47%(560/563科目)でした。キャンパス別にみると、名古屋99.56%(450/452科目)、瀬戸99.10%(110/111科目)でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は100%(580/580科目)でした。名古屋100%(464/464科目)、瀬戸100%(116/116科目)でした(評価対象科目が、演習科目のうちのいわゆるゼミ、あるいは受講者数が4名以下の科目は、学生による授業評価

を実施せず、報告書の提出のみをお願いしています。この分の科目数15が、①で示した科目数にプラスされています)。

③ **評定平均値** 設問1から3までの学生の授業参加を問う項目と設問4以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、設問4から設問18について平均値を算出しています。電算処理が行われた553科目(回答数が4名以下の7科目は、電算処理を行っていません) 設問4から設問18の評定平均値の大学全体での平均は4.40でした。この平均値についての科目数と累積の分布を図1に示しました。

電算処理実施科目のうち約90%の科目が、設問4から設問18の評定平均値が4.0を超えており(4.0以下が9.58%)、さらに約80%の科目が4.2を超えています(4.2以下が18.99%)。また今回、設問4から設問18の評定平均値が3.0未満であった科目は1科目でした。

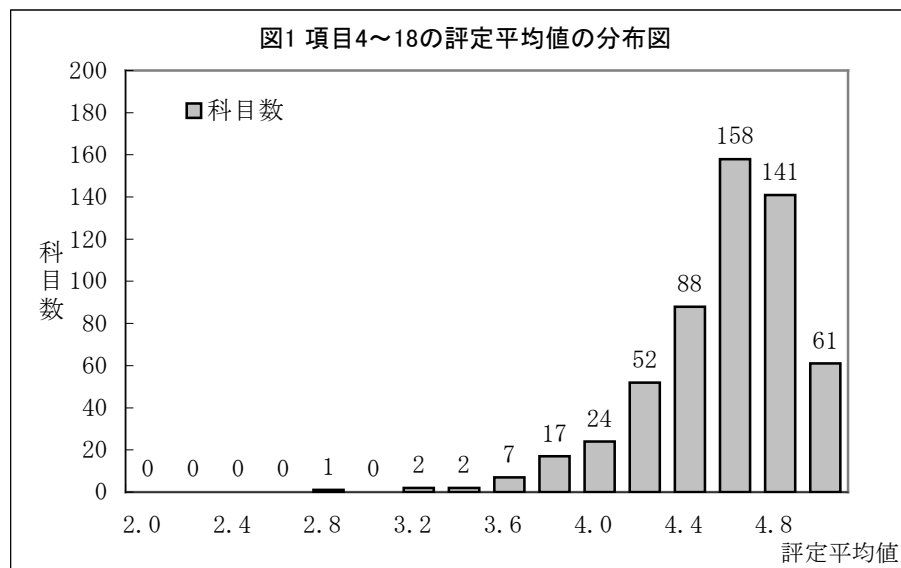


図 2-1 授業への出席

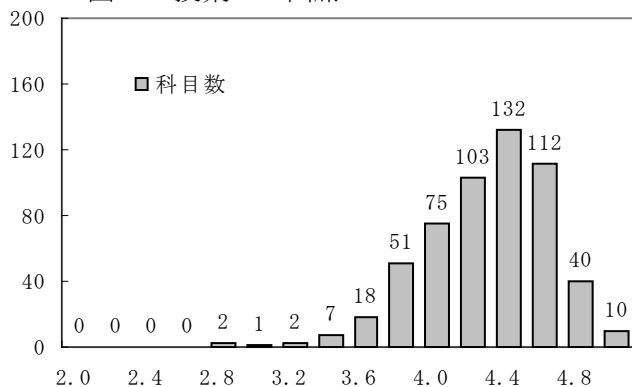


図 2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

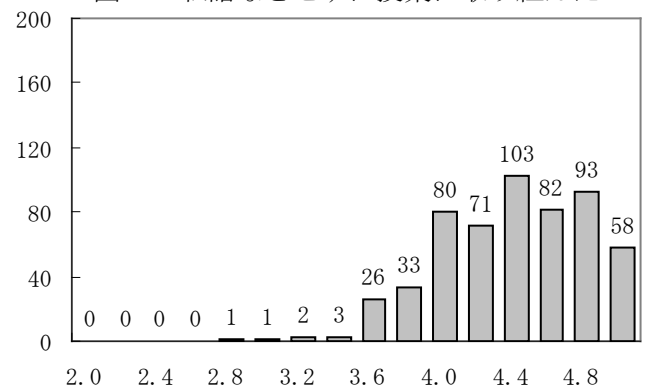


図 2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

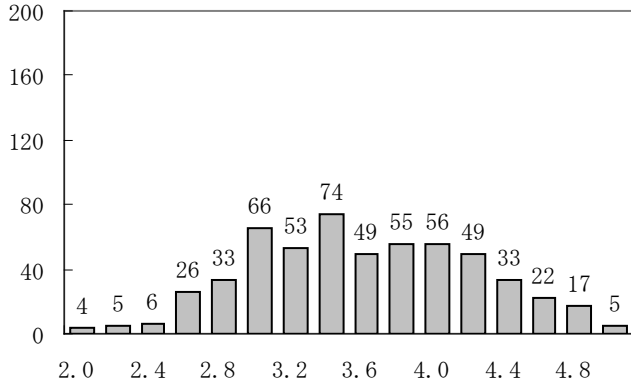


図 2-4 授業時間の厳守

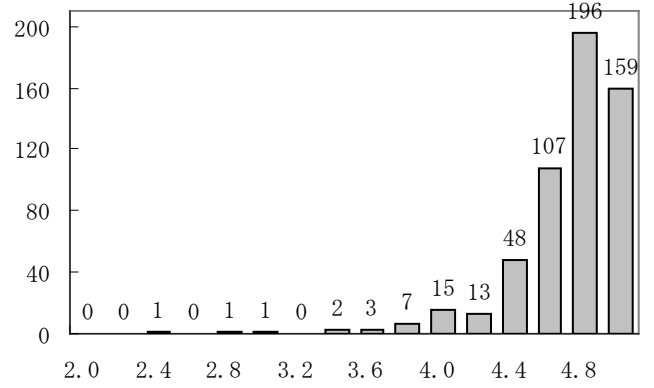


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

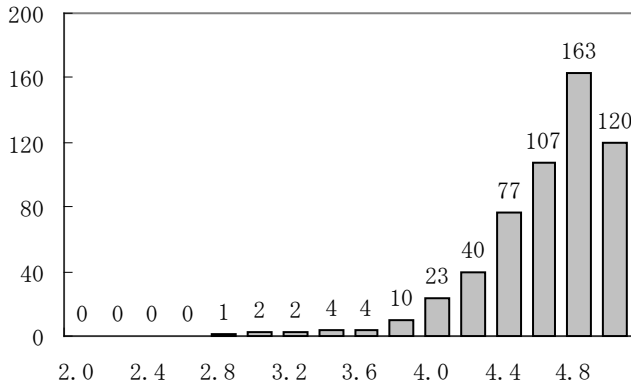


図 2-6 学修目標の明示

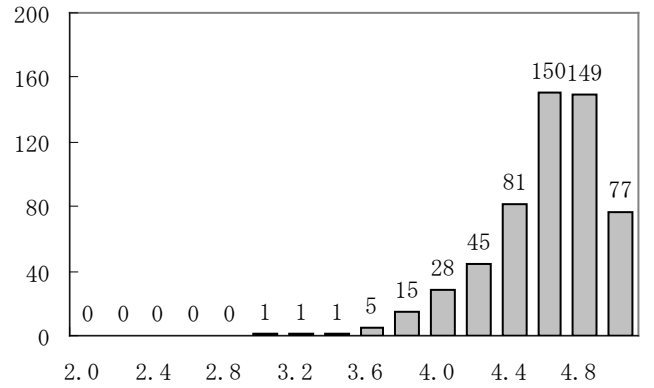


図 2-7 シラバスの有用性

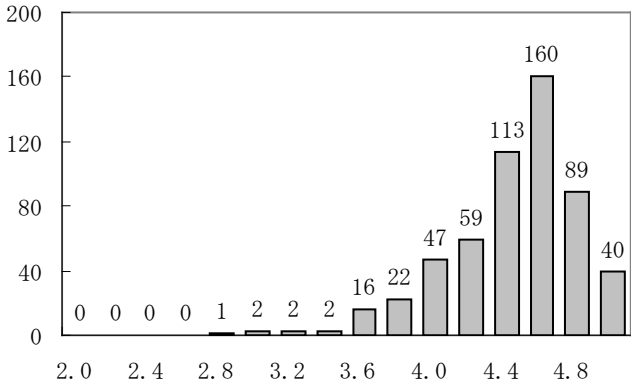


図 2-8 教員の声

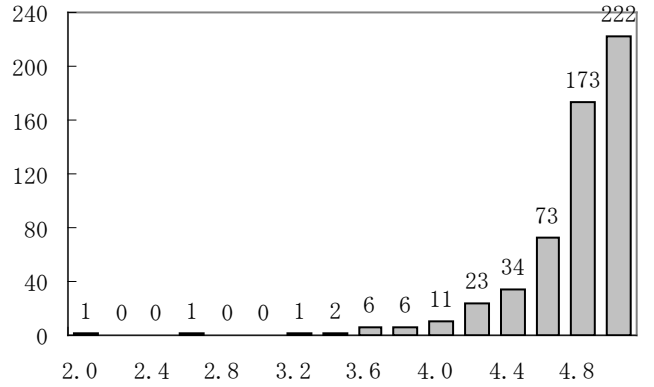


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

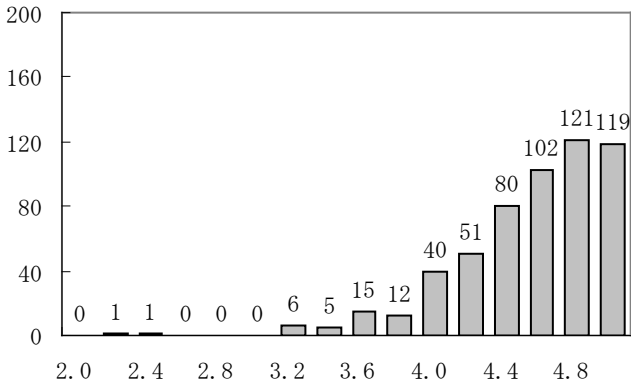


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

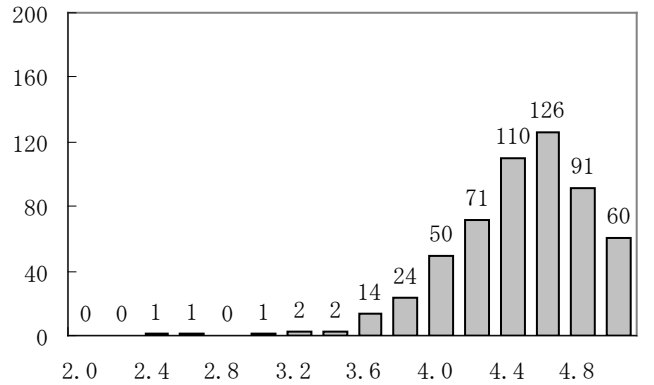


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

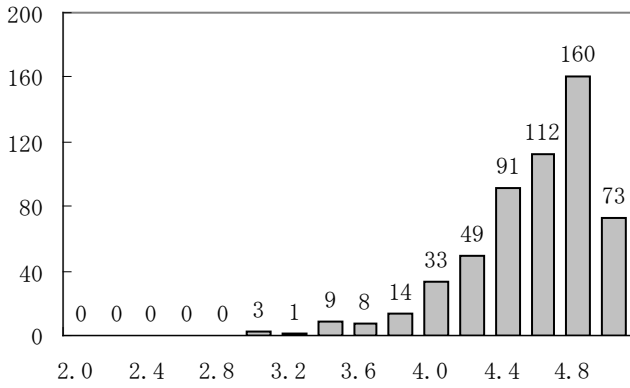


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

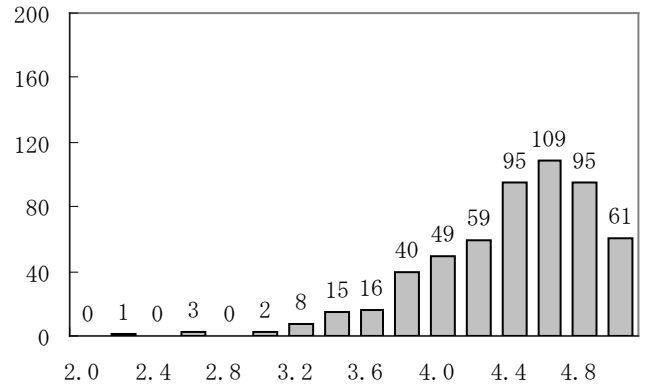


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

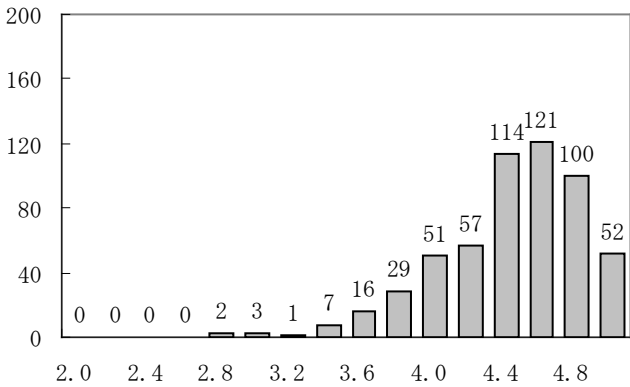


図 2-14 質問や相談の機会

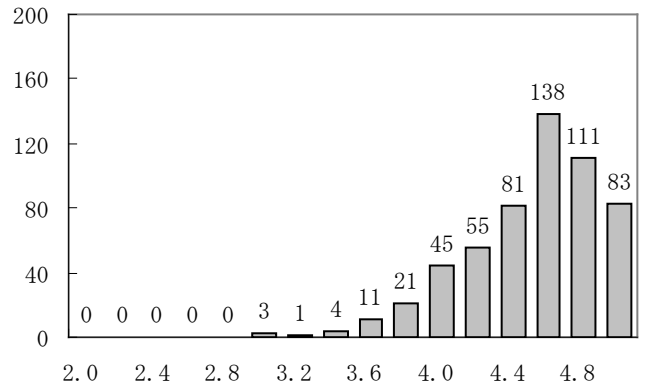


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

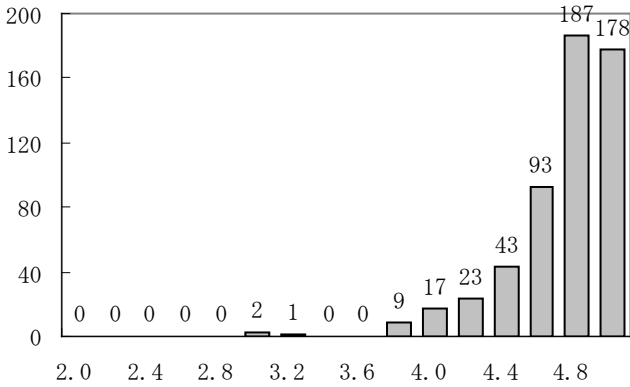


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

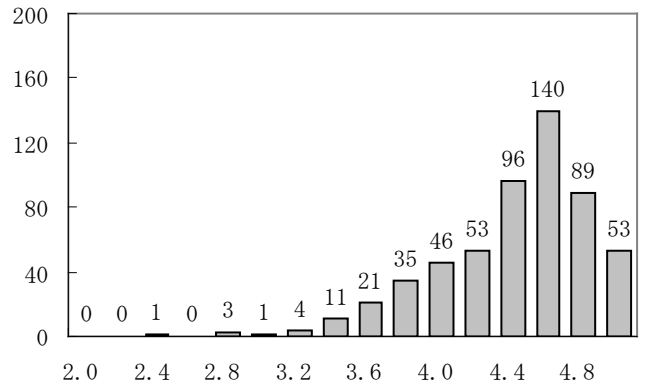


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

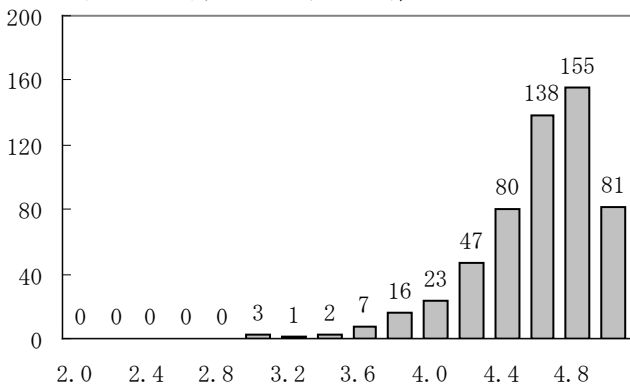
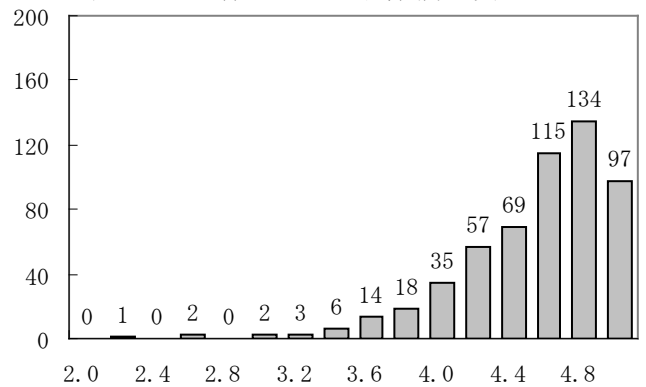


図 2-18 全体としての授業満足度



評定平均値の大学全体の平均が高い設問は、設問 4（授業の開始と終了の時間はきちんと守られていましたか）の 4.59、設問 8（教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか）の 4.61、設問 15（担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか）の 4.60 でした。これら 3 項目のヒストグラムも右肩上がりになっています。ちなみに、これらの 3 項目は、設問項目を現行の内容にした 2006 年度春学期以来、一貫して高い評定値を維持しています。

次に評定平均値の大学全体の平均が高い設問（4.40 以上）は、設問 5（毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか）の 4.50 と、設問 6（授業の学修目標ははっきりと示されていましたか）の 4.45 でした。授業の構成や速度、学修目標が示されていることは学生から比較的评价されているといえます。ちなみに、学修目標は 2014 年度から「到達目標」となり、到達目標の観点からも「学生による授業評価」が行われます。到達目標がさらに明示され、到達目標が軸になって授業が行われ、受講生が到達目標を達成できることを通して、さらなる授業改善の取り組みが行われることを願っています。

一方で、評定平均値の大学全体の平均が 4.30 未満と他の項目に比べて若干低めで、かつ、評定平均値が 4.40 未満であった科目が 5 割を超えていた（つまり、比較的低い評定が多い）ものは以下の項目でした。設問 12（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すような工夫はありましたか；大学全体の平均 4.21）、設問 13（自主的・発展的に学習を進めることができるように、適切な指導・情報提供がありましたか；大学全体の平均 4.26）。この 2 つの設問は 2013 年度春学期「学生による授業評価」まとめ冊子における巻頭言でも課題として指摘しました。学生の学習意欲を引き出し、主体的に学ぶことが可能になるような工夫を行っていくことが、本学における授業改善の課題になっています。

設問 18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は、われわれが最も重視する項目です。今回、この項目の評定平均値は 4.38 でした。85%以上の科目が 4.0 を超えています（4.0 以下が 14.65%）。他方で 3.0 未満の評価を受けている科目が 1 科目ありましたが、全体として、学生の満足度を十分満たしていると思われます。

### 3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18 の設問で評価を求めるようになったのが 2006 年度春学期からです。以下に紙幅の都合上、最近 9 期分の評定値を表に示します。

表 1 項目 4 から 18 の評定平均値（2009 秋～2013 秋）

年度・学期	2009 秋	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋
全 体	4.25	4.28	4.36	4.31	4.39	4.35	4.41	4.38	4.40
名古屋	4.31	4.33	4.39	4.35	4.43	4.37	4.42	4.41	4.42
瀬 戸	4.07	4.13	4.24	4.18	4.30	4.29	4.35	4.29	4.34

表2 18項目ごとの評定平均値(2009秋～2013秋)

設問項目	2009	2010	2010	2011	2011	2012	2012	2013	2013
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
1 授業への出席	4.17	4.30	4.19	4.30	4.17	4.29	4.21	4.26	4.20
2 授業への取り組み	4.08	4.16	4.14	4.17	4.20	4.21	4.15	4.21	4.16
3 自主的な学習の実行	2.97	3.00	3.02	3.10	3.17	3.19	3.25	3.26	3.27
4 授業時間の厳守	4.47	4.60	4.60	4.61	4.60	4.62	4.61	4.63	4.59
5 構成や速度が適切	4.35	4.41	4.47	4.45	4.48	4.46	4.50	4.50	4.50
6 学習目標の明示	4.32	4.34	4.41	4.37	4.45	4.40	4.46	4.44	4.45
7 シラバスの有用性	4.22	4.24	4.30	4.27	4.37	4.31	4.36	4.34	4.36
8 教員の声	4.51	4.55	4.60	4.55	4.60	4.57	4.60	4.59	4.61
9 理解度への配慮	4.21	4.22	4.33	4.26	4.35	4.30	4.38	4.33	4.38
10 妨げ行為への対処	4.13	4.18	4.26	4.23	4.29	4.24	4.29	4.28	4.28
11 板書、配布資料	4.23	4.24	4.33	4.29	4.36	4.33	4.37	4.34	4.38
12 意欲を引き出す工夫	4.03	4.03	4.13	4.07	4.19	4.13	4.22	4.17	4.21
13 自主的学習の指導	4.06	4.07	4.17	4.10	4.23	4.18	4.26	4.22	4.26
14 質問や相談の機会	4.18	4.21	4.29	4.25	4.34	4.30	4.36	4.30	4.33
15 教員の姿勢	4.49	4.54	4.58	4.55	4.61	4.57	4.60	4.58	4.60
16 内容へのさらなる興味	4.09	4.10	4.19	4.13	4.25	4.19	4.27	4.22	4.26
17 知識・理解の深まり	4.28	4.31	4.37	4.33	4.42	4.37	4.42	4.39	4.42
18 全体としての満足度	4.23	4.24	4.32	4.26	4.37	4.32	4.39	4.35	4.38

表1は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問4から18の平均値を学期ごとに示したものです。大学全体の評定平均値は、既述のように4.40となりました。これまで、秋学期の評定平均値は年々上昇し、過去最高の数値を更新してきましたが、2013年度秋学期（評定平均値4.40）は2012年度秋学期（評定平均値4.41）よりも低く、初めて前年度の評定平均値を下回りました。これまで毎年上昇してきた、瀬戸キャンパスにおける評定平均値の上昇が止まったことがその一因であると考えられます。

表2は、9期分の18設問ごとの評定平均値を示したものです。

2012年度秋学期の平均値よりも低くなったのは、設問1、設問4、設問6、設問10、設問12、設問14、設問16、設問18でしたが、それらの項目の中で2011年度秋学期の平均値よりも低かったのは設問4（授業の開始と終了の時間はきちんと守られていましたか）、設問10（私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がなされていましたか）、設問14（質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか。あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか）でした。

これまでの数年間、設問4から18の平均値や上記の設問の平均値は順調に上昇してきま

した。これまでの上昇傾向は「教員の授業改善の努力が着実に進められていて、学生がそれをきちんと評価していることの表れ」（2013年度春学期「学生による授業評価」まとめ冊子の巻頭言における筆者による言葉）と捉えていました。そのため、2013年秋学期になってこれらの設問の評定平均値について上昇傾向が止まったという結果に注目する必要があります。それは、これまで評定平均値が順調に上昇してきましたが、今後は踊り場（停滞期）に入る可能性があり、授業をさらによくして評定平均値が上昇するには、これまで以上の授業改善への努力が必要になると考えられるためです。

今回、評定平均値が下がった3つの項目（授業の開始や終了時間を守ること、授業の妨げになる行為への対処、質問や相談の機会を設けること）を中心に、さらなる価値を提供できる授業を目指して、教員一人ひとりが授業改善に取り組んでいきましょう。また、授業改善を推進するための各単位（学部、学科、共通科目の委員会等）でのFD活動をさらに推進させていく必要があります。

#### 4 回答率について

前FD委員会委員長が「南山大学『学生による授業評価』のまとめ」評価報告書において指摘されていた問題が、大教室での授業で回答率が低い科目が多いことでした。今回を含む過去9期の大学全体の回答率、および、授業規模で4つに分類したカテゴリーごとの回答率の推移を算出しました（表3参照）。

授業の受講者数が多いカテゴリーほど、回答率が低くなっています。また、春学期に比べ、秋学期に回答率が低くなっています。一方で、回答率が年々低下しているという傾向はなく、秋学期は121名～240名の規模の授業というカテゴリーにおいて平均が5割、241名以上の授業というカテゴリーで平均が4割と、非常に低い割合です。筆者が2013年度春学期「学生による授業評価」まとめ冊子の巻頭言で、回答率は出席率と関連があると述べました。学生が学び、授業の到達目標を達成するためには、大教室での授業で学生の出席率を高める取り組みを行っていく必要があると考えます。

表3 回答率の授業規模ごとの平均値（2009年度秋学期～2013年度秋学期）

	2009 秋	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋
全体	56.8%	62.3%	55.6%	64.2%	54.8%	64.8%	59.9%	65.9%	60.6%
30名以下	83.5%	84.3%	83.4%	89.2%	82.7%	87.8%	86.9%	88.4%	84.9%
31～60名	77.2%	81.9%	77.6%	83.4%	75.7%	83.1%	77.9%	83.2%	79.6%
61～120名	60.8%	67.5%	59.5%	70.3%	56.6%	67.1%	61.1%	68.5%	60.6%
121～240名	52.9%	59.1%	50.9%	58.3%	48.0%	58.5%	53.0%	59.0%	55.2%
241名以上	41.3%	41.9%	35.6%	46.7%	40.2%	49.1%	42.8%	50.7%	42.3%

## 5 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

② **レーダーチャート 2 種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目 1~3 の評定平均値が、3.0 以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

## 6 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、自由記述欄に書かれた各項目を閲覧しています。これは、学生のみなさんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを知るためです。ここで得られた知見については、FD 関連 Web ページ内の、「**授業評価自由記述欄からみる「よい授業」とは**」で公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛りを提供するためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもつなど、改善に向けた具体的な方策を考えています。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。

以上